

# 第3回クロマツシンポジウム記録

## — 第1部活動報告 —

2006. 11. 11 酒田市総合文化センター

### ①酒田市立第一中学校

1学年 池田陽樹・斉藤佐和・伊藤万里・佐藤正直

皆さんこんにちは。私たちは酒田市立第一中学校の1年生です。よろしくお願ひします。今日は、7月3日に行った「クロマツを守る活動」についての報告をいたします。

私たちが行ったこの活動は、地域ボランティアの一環として、毎年1年生が行っています。私たち酒田市立第一中学校は、裏手には万里の松原、近くには光ヶ丘のクロマツ林が広がり、美しいクロマツ林に囲まれた環境に位置しています。私たちにできる、環境を守る具体的活動を通して、厳しい風砂を守るために植林し、素晴らしい環境を作ってきた地域の歴史を知るとともに、次世代に引き継ぐ意識を高めていきたいという目的で取り組みました。



これまでの取組みとしては、平成16年度に酒田中央高校テニスコート脇のクロマツ林の下草刈りと枝打ち、平成17年度に校舎裏側の万里の松原の下草刈りと枝打ち、そして平成18年度に大浜地区の飛砂防備保安林の枝打ちを行いました。今年当初、万里の松原を予定していましたが、昨年度の実施によりきれいな状態だったので、庄内総合支庁森林整備課の梅津さんのアドバイスを受け、大浜地区の飛砂防備保安林に決定し挑戦しました。

6月26日に、実施にあたっての事前学習を行いました。庄内総合支庁森林整備課の梅津勘一さんをお招きしての講話でした。庄内海岸林の歴史や庄内砂丘における松林の担う意義、海岸林を守ってきた人々の活動、そして未来を担う私たちが受け継いでいこうというお話でした。海岸林を守り育ててきた先人の労苦は、私たちの心に響き、これから私たちが受けついでいかななくてはという使命感が芽生えました。また、松陵小学校でも活動したことのある生徒もいたので、さらに活動意欲が高まりました。

7月3日月曜日、飛砂防備保安林で枝打ち体験を実施しました。あいにく、小雨の降る中でのスタートでしたが、無事、予定された区域の枝打ちを終了することができました。たくさんのスタッフの方に支えられ、丁寧にご指導をいただき、応援していただきました。当日指導された方々は、庄内総合支庁森林整備課、朝日庄内森林環境保全ふれあいセンター、万里の松原に親しむ会、庄内海岸のクロマツ林をたたえる会、酒田市農林水産課、庄内森林管理署、酒田工業高校、鶴岡工業高校の先生方の方々です。心から感謝しています。

ヘルメットにのこぎり……。初めて体験する活動に最初はみんなとまどいましたが、指導員の方々の丁寧な御指導と作業道づくり、蜂対策など万全の準備をしていただき、踏み込むこともできないほどに枝が広がった約0.2haの枝打ちに挑みました。活動前とは比べものにならないほどきれいになった、青空をのぞける林を見て、自分たちの行った活動に充実感と満足感を覚えました。

作業を終え、汗ばんだ1人1人の顔はいきいきとしていました。また、枝打ち作業だけでなく、御指導、応援していただいた方々との関わりや、地域の方々との交流を深める貴重な体験にもなりました。事前学習で学んだ、自分たちの行った作業がクロマツを守っていくうえで大切な作業であることが実感でき、慣れなくて大変だったけれども、気持ちのよい汗を流すことができた一日でした。

私たちの活動は、荘内日報さんや「私の街さかた」の記事で紹介され、とてもうれしかったです。と同時に、クロマツ林の枝打ちボランティアがどんなに大切な活動であるかわかりました。最後に、活動に参加した生徒の感想を紹介します。

「今日はあいにく雨が降っていたけれど、クロマツが気になって、枝打ち作業にいきました。地面はぐちゃぐちゃ、雨は降り続け、虫はうじゃうじゃ飛んでいて、はっきり言って気持ち悪かったです。でも、先人の方々は、雨、風、雪にも耐え、この林をつくってくれたのだと思うとがんばれました。だんだん慣れてくると楽しくなってきました。みんなと協力して助けあい、だんだんクロマツ林がきれいになってくるのを見て、うれしくなってきました。来たときは枝だらけで何も見えなかった松林がきれいになった時には、本当にすがすがしい気分になりました。気がついたら雨もやんでいて気持ちがよかったです。大変良い経験をしたと思います。先人たちの思いがちょっとだけわかった気がしました。

今回のクロマツ林の活動・体験学習はずっと受け継がれていってほしいです。これで、やっと私たちも、クロマツ林の歴史に名を連ね、足跡を残すことができたのだと思います。満足感と達成感で心がいっぱいです。企画、準備していただいた、スタッフのみなさん本当にありがとうございました。」

「僕はクロマツ林を守る活動、クロマツ林の枝打ちをして思ったことがいくつかあります。まず、1つ目は庄内砂丘の広さです。講座の時、庄内砂丘は鳥取砂丘の面積より広いことを知り驚きでした。そして、その砂丘に、昔の人々がクロマツを植え、育て、クロマツ林を守っていったことを知り、感動しました。それから、2つ目は枝打ちについてです。僕は枝打ちに対して、辛いイメージや嫌なイメージしかありませんでした。しかし、やってみると意外に楽しく、悪いイメージは全然感じませんでした。それにこの枝打ちは、酒田のためになるのだと考えると、自分が酒田市の一員になった気がしてうれしくなりました。最後に3つ目は、このクロマツ林をずっと絶やさないようにしていかなければならないということです。いま、このクロマツ林のために、小学生から高齢者まで様々な年代の人が活動しています。その活動をまた次の世代へと伝えていかななくてはならないと思います。先人たちが培ってきたこのクロマツ林の歴史をずっと残していくために、この活動に誇りを持ち、酒田の歴史に貢献していかなければならないと思いました。」

これで酒田市立第一中学校の報告を終わります。



## ②出羽庄内森林組合 総務課長 小野寺和幸

出羽庄内森林組合の小野寺です。ただいまは酒田一中の若い生徒さんのあとに、このように中年の男がでてきたことに、みなさん違和感を覚えるでしょうけれども、我慢して聞いてください。森林組合といいますと、「どういうところだ？何をしているのだ？」とよく人に聞かれます。一般の人にはなじみがなく、知らない人も多いと思いますが、我々の仕事は人のいない山の中なので、仕方がないのかもしれない。

出羽庄内森林組合は、平成10年7月1日に、当時の鶴岡市森林組合、立川町森林組合、羽黒町森林組合、櫛引町森林組合と朝日村森林組合の5つの森林組合が広域合併してできました。森林組合というところは組織的には農協と同じで、出資者であります組合員の共同出資に伴う共同組合です。ただし、農協と比べると非常に規模が小さい。農協は、それこそ、ゆりかごから墓場まで非常に幅広く事業を展開して、町中に店舗を出したりしていますが、森林組合は、林業関係分野だけの小規模な事業をやっていることから、知名度が低いのだと思います。



組合員数は現在5,804名で、出資金が、1億5570万円ほどです。県下に15の森林組合がありますが、この部分だけは、県下で1番となっており、大きい組合です。また、旧温海町を除く新鶴岡市と、庄内町の旧立川町にある森林面積を足した面積、8万8千haが当組合の管轄面積となっています。そのうち、民有林が約3万3千ha、国有林が約5万5千haあり、その民有林3万3千haのうち、森林組合員の所有する森林面積が約2万haほどあります。

それから、庄内地方には、北から遊佐森林組合、飽海地方森林組合、酒田森林組合、出羽庄内森林組合、温海森林組合の五つの森林組合があります。昔は、1市町村1森林組合という形であったのですが、今は市町村合併がありまして、酒田市に飽海地方森林組合と酒田森林組合の2つの森林組合、同じく鶴岡市に出羽庄内森林組合と温海町森林組合があります。それで先ほど、当組合の管轄面積の説明の中で、旧温海町の森林面積を除く新鶴岡市の森林面積となっているという、ちょっと、ややこしい言い方をしたわけです。

次に、森林組合はどんな仕事をしているかといいますと、まず、スギやクロマツなどの苗木を作っています。そして、それらを山に植え付ける作業をしています。それから、下刈り、つる切り、いらぬ木を切る除伐、間引きをする間伐、といった森林の手入れ作業をします。また、大きくなって製材して利用できる木の伐採作業とか、山の道路、作業道とかっておりますが、そういうものも作っています。また、海岸林のクロマツの仕事も行っています。

クロマツ林は、海岸線に平行して位置しています。そして、海側が国有林、平野側が民有林という形で存在しています。このクロマツの林は、みなさん十分御承知のとおり、その林帯の間にある畑や民家を風や砂の害から防いでいる。そのクロマツを守る仕事が、国有林を管轄している国、民有林を管轄している県や市から、森林組合に仕事が出されます。

クロマツ林の仕事はまず、松くい虫の被害を受けたクロマツの伐採作業です。伐るだけでなく、その木から害虫が出て他の木に被害を与えないように、伐った木の幹や枝をすべて集めて薬剤処理し、ビニールシートで覆う作業とか、機械で砕いてチップ処理する作業を行います。また機械を使った薬剤散布も行いますが、これは、風向きによって、人家や畑作物に薬害を与えないよう、注意を払って行います。松くい虫被害木の伐採作業ですが、大きなマツ、特に、すぐ近くに電線や人家やビニールハウスがある場合ですと、一気に根元から伐ることができません。いちいち、作業員がその木に登って、上の方からチェーンソーで細かく切り落とす、或いはもっと難しくなるとそれだけでは足りなくて、木をクレーンで吊り上げて伐る場合があります。

森林組合として携わっている作業は、被害を受けたマツ、枯れてしまったマツを処理しているわけですから、予防的仕事というよりも、対処的仕事をしているのではないかと思います。でも、松くい虫の被害は確実に減ってきていることはいえます。

このように森林組合は、みなさんと違う形で、仕事とか、業として、クロマツ林に関わっています。本業は別に持ちながら、ボランティアという形でクロマツ林を守る活動に加わっている方々と、我々森林組合のように、本業として加わるという2つの加わり方があると思いますが、目的は同じです。最後に、これからのみなさんの様々な活動を通しまして、クロマツだけでなく、緑、森林に対する理解と認識が、一般の方々を含みまして、一層深められれば幸いです。ありがとうございました。